



留学体験記

歯学部 歯学科 5年
西條 早紀 (さいじょうさき)



観光地 ボコの丘にて。



世界遺産、ボルブドゥールにて。



臨床実習生の処置を見学。これから歯を抜くところです。

私は、春休みの約二週間、インドネシアのジョグジャカルタという都市で過ごしました。参加したのは、徳島大学とムハマディア大学ジョグジャカルタ校(UMY)の交換留学です。このプログラムの存在を知ったのは、入学してすぐの事でした。それから、ずっと行きたいとは思っていましたが、まだ何の知識もありませんでしたが、無駄になるのではと、行く時期を悩んでいました。その為、先生とも相談し、勧められた四、五年生の間の春休みに行くことを決めました。

今回は参加者が私一人だったので、現地では、先生方が一緒だった初めの三日間以外、コミュニケーションはほぼ英語でした。それが、英語を学ぶにはとても良い環境だったと思います。日本語とインドネシア語を教え合うこともあつて、常に賑やかな日々でした。平日は、講義や実習に出席したり、病院見学をしたり、臨床実習生の手伝いをしたり、と様々な経験をしました。特に刺激を受けたのは、学生同士でのカンファレンスです。グループ内でリーダーや書記を決め、一人の患者についてその情報から問題点、疑問点を書き出します。そこから、話し合いを重ねて、課題を見つけたり、知識を出しあったりしていきます。私の学科では日本語で行いますが、彼らは、英語でも、インドネシア



昼食などのお世話してくれた学生達と。この時来ているのはパティックという伝統的な柄の衣装。



インドネシア語で行われた小児歯科学の授業にも出席。

語でも行います。わからない単語があつても、その時間はインドネシア語を使わず、英語を積極的に使っているのが印象に残りました。専門用語が飛び交う為、理解することは難しかったですが、少しだけ話し合いに参加することができ、学びの多かった授業の一つです。また、日本語の授業を見学する機会もありました。インドネシアは、日本語学習者が多い国の一つであると知り、驚きと喜びを感じました。

休日、以前日本に来ていた学生達が、色々な場所へ連れていかれてくれました。歴史博物館や、世界遺産であるボルブドゥール、活気溢れるマリオボロ通り、スコールの中食食べた屋台のご飯など、思い出を書き出せばキリが無いほどです。彼らは、学校とホテルの行き帰りも面倒を見てくれて、一人ではありましたが、寂しいと感じることはありませんでした。また、ホテルのスタッフさん達も優しい人ばかりで、日本と同じようなホスピタリティを感じる瞬間は多かったです。それも、寂しさを感じなかった理由の一つかもしれません。

この11月には、四人の学生が徳島にやってきました。久しぶりに彼女達に会えることを、心待ちにしています。



My Life in Tokushima

徳島大学での留学生活

総合科学部 社会総合科学科 3年
VU THI THUY VAN (ヴーティツイバン) [ベトナム]

私は平成29年4月に徳島大学に入学しました。あつという間に一年半の学生生活が過ぎました。徳島大学で学びながら、様々な貴重な日本の文化を体験できて楽しかったです。徳島大学は地域の組織と連携して、留学生に対して多くの国際交流イベントを行っています。例えば、留学生の歓迎

会、国際交流サロン、スタディーツアーや地域の人たちとのみかん狩り、ホームビジットなどです。私はこれらのイベントに参加して、これまで体験するチャンスがなかった阿波踊りや藍染めなどの徳島の文化を体験することができました。そして、このような国際交流の中で、様々な日本人の学生、地域の人、そして他の国の留学生に会え、互いに国と文化について話したり聞いたりして異文化を知ることができ、本当によかったと思っています。

現在、総合科学部の三年生です。一年生のときには、教養科目とグローバル科目で基礎的な内容を学びました。二年生のときにコースが分かれ、関心のある分野を中心に勉強しました。大学では、机の前で勉強することだけではなく、実際に現場に行つて見学したり、地域の人と話し合ったり、合宿で勉強したりする形の授業が多くあります。一年生のときから実際にいろいろな学習方法を体験し、教科書に書かれていないことをまさに実感できています。また、先生方がパワーポイントを利用して、イメージ、動画、音楽を使って工夫された授業を提供してくださるので、抽象的な概念も容易に理解できています。これは日本語が母語

ではない留学生にとって本当ありがたいことです。私は将来、子どもの発達支援に関わる仕事をしたいと考え、山本真由美先生のゼミで今年の4月から専門の勉強を進めています。毎週ゼミの時間に、先生と仲間のゼミ生と一緒に論文を読んだり話し合ったりして内容を理解しています。大学内で学ぶことに加えて、大学からの紹介で毎週月曜日に小学校へ行つて、子どもの学習支援ボランティアの活動に参加しています。私にとって、これは本当に貴重な機会です。学校で教わったことと実際の子どもへの支援のお手伝いをしながら学んだことから、今後の卒業論文テーマを考えていきたいと思っています。

大学卒業後は大学院に進学するつもりです。将来、「子どもの発達支援の仕事」をしたいので、大学院で「子どもの発達と保育」、特に両親が何らかの理由で養育できない環境にある子どもたちの支援について深く研究したいです。その後、数年間日本の支援団体で働き、多くの知識と実践的な経験を積み、それから帰国後、日本で学んだ知識と経験を活かして、ベトナムの子どもたちを支援する組織で働きたいと思っています。私は自分の夢を必ず実現させます。



YMCA心身健康コース入門講座合宿で(筆者: 2列目左から2番目)。



はな・はる・フェスタで(筆者:左端)。



山本真由美先生(左端)の心身健康ゼミで(筆者: 右端)。